

会議名：会話

録音日：平成24年12月19日（水）

場 所：不明

発言者は下記のように立てています。

○A：南

○B：カヅマ

○C：田脇

○D：西ノ坊

○E：カガ

○F：弓場

○…：不明

【備考】

0:16:03～1:07:46まで入力しています。

○A そういうことは、きのうもちちょっとお話しさせてもらいましたけども、その辺、弓場さんとして納得いかないこともお話を、きょうはさせていただくことになると思います。その辺は一応、事業所としてのお考えということで、弓場さんに、もし心当たりがないというなら、ないで、それは仕方ないことでしょうし、事業所さんのおっしゃる形をきょうは正式に受けとめて聞いていただきたいと、そのように考えてますので、よろしくお願いいたします。

○F ガマさんは、この話はどの辺まで知ってはるんですか。

○B 課長からの報告、お話の範囲は聞いております。

○A ですから、これまでの経過はウエダも通じて全て、我々の介護保険の中では共有しておりますので、全てわかっているという前提でいいと思います。

○F それと、ガマさん、男や女やとか、範疇で言わないでくださいね。これはビジネスとして。そうですね。

○B はい。

○A うん。

○F でも、誰か、皆さん、例えば誰か派遣で、誰かが、人が休んで来られないので、かわりに誰か来てくださいといったときに、普通の人の仕事、一般的にショッテとか、ちょっとこの人、女の子だからといって、この人はちょっとと言われると心が傷つくんですとか、そんな話はやめてくださいね。阪神大震災で、そんな誰が嫌やとか私は女やからでなしに、みんなヘルメットかぶって、走るときはみんな走ります。

はい。

○A なら、田脇さん、この形で進めさせて、何か進め方で御意見とかあったら先に聞いておきますけど。

○C いや、そういう形でいい……。

○A よろしいですか。

そしたら、これから、みらいさんのほうから、この今回の解約、突然の解約に至った理由を正式に述べていただきますのでね。その辺、それでまた弓場さんがどうされるかということは御判断を後でしていただければいいと思いますので。

そしたら、……お願いできますか。

○D 12月5日の水曜日にお電話でも申し上げましたし、その翌日、訪問させていただいて御説明させていただいたとおりなんですが、12月5日の水曜日のお昼に、ヘルパー

のほうから事務所のほうに弓場さんの件で話を聞いてほしいということで集まりました。その際に、今まで、おのおのがいろんな思いを抱えていたと思うんですけども、みんなが集まった中で、これ以上、訪問することがしんどいというふうに言ってまいりました。今まで1年少し支援に携わらせていただいていたんですけども、いろんな。

○F 済みません、田脇さん、ちょっと議事録とっついてくれますか、私。

○C はい。

○D いろんな精神的な負担というのが積もってきて、これ以上、訪問することが難しいというふうに申し出てまいりました。

○F それは全員ですか。

○D 全員。

○F 全員って、4人ですよ。

○D 4人です。

○F ほれで、それが、何がしんどいと言われるんですか。

それで、1個1個お聞きします。その打ち合わせは、ごめんなさい、もう一個戻します。ごめんなさいね、言葉こんな、頭こんな。

木村さん、あなたに私は、あのときにちょっと、おやじが小さい子供に言うみたいに、あんたはこんな考え方おかしいと言って、ほんで、あなたは、そのときは何もそんな口答えはしなかった。ほれで、あとは、私の印象に残っているのは、あなたはそれなりにきつい言葉であっても、それなりに弓場さんの言うこともわかるなど。理解できるなど。でも、弓場さんがちょっと最後、私が最後に、こんなことぐらいの聞いてくれませんかと言ったときに、聞くけども木村さんとも仲よくしてくださいと、あなたも私に言ってくれた。私が、あとちょっと、半年になるかわからへんけど、これだけちょっと行かせてくださいねと言いましたね。そのことはあなたが、意趣返して知ってますか。意趣返して。

○E わからない。

○F 仕返し。仕返しのために今回が、あなたはやったわけじゃないんですか。それじゃないんですか。この人の言うとおりでいいんですか。

○D それはもう間違いないです。

○F じゃあ、あの時点では、12月4日の時点では。

もう一個聞きます。どうして阪南市の方をいきなり、弓場にも田脇さんにも何も言

わずに連れてきたんですか。私の、まして私みたいな個人の、こんな体でも一応あるじの自宅です。私はあるじです。その家に人を連れてくるときに、どうしてあるじに相談もしないで、たとえ阪南市であっても、私とは別に、阪南市の下の人間違います。関係ないです。でも、そんな阪南市の人も、だから、あなたに言いますけど、何でウダさんに、最初に私が何か物すごく不愉快だったのは、こんな言いました。あなた、何しに来たんって、最初。わからんから。私は南さんが前のこんな話を、携帯電話の話をしてあるから、それでわざわざ使わせてくれたと思ったから、その場はそのまま進めたけども、もし、それが、もし、ないときやったら、あなた、何で人の家に、別に阪南市でも警察でも、人の家に勝手に入ってくるのにアポイントもとらずに、ほんで、田脇さんにも一言も言わずに、一方的にみらいさんの話だけを聞いて私を連れてきた。ほれで、あなたもそれを使わせたと言うけども、じゃあ、本来なら、阪南市かどちらかが、こうこうで弓場さん、行かせてもらいます、よろしいでしょうか。

だから、そういうところからして、私は今回のことは、余りにも傲慢というか、ぞんざいというか、だから、こんな体やからとか、そんなに極端に差別してるもんじゃないとは思いたいんですけど、でも、やっぱり昔、ウダさんに、後で私は思い出したんです。あの人、私の家に何か、介護の認定するときに、取りたいときに、あの人の態度が余りにも何というかな、やったってみたいところが私は感じたんです。だから、そういうところ、同じことを彼女もありました。

- A それは弓場さんがそうお感じになったわけなんですよ。
- F うん。ただ、でも、今回だって、みらい、こちらも本来なら、どうして、田脇さんにも言っていないでしょう。田脇さん、聞きましたか、あのとき。
- A だから、本来。
- F えっ、田脇さん、聞いて？
- C いやいや、来る前には聞いてないですけどね。
- F えっ。
- C 聞いてないです。
- F そうでしょう。
- A それは、いや、うちもついていくのに、うちから。
- F いやいや、済みません、ごめんなさい、何で私の家へ勝手に、誰もアポイントも知らずに連れてきたんですか。いや、それを聞きたいんです。

だから、今回の問題いろいろ、私は全部がもう疑心暗鬼になるんだけども。いや、違う、みらいさんが言いよった。どうして、それとも、こっちから言われたんですか。一応連れていくから、そこをはっきりしてください。

○A そのときに、きっと4日、12月4日の。

○F 違う、違う、いや、そっちから依頼したんですか。この課長に、南さんに。

○A 依頼もらいましたよ。

○F もろたんですか。

○A はい。一緒に同席してくださいということだね。

○F ほんで、何でアポイントもせずに、人の家へ入るときにいいんですか。ほれで、私も聞いてなかった。

○A そうですね。

○F ほんで、月曜日に田脇さんから電話あって、「社長が一応、火曜日に来られるってなりました」って、「行きますので」。「はい、わかりました」。ほんなら、まさか来るとは思ってた。あなたも私に何も言ってなかった。何も言ってない。ほれで、何でこっちだけ言ってたんですか。

○A 依頼を受けたので、ここだけはついていきますよというお話はしてたので。

○F じゃあ、何でそういうことを、じゃあ、あなたたち何ですか。本当に言ってくださいよ。今回のこと、私も人間やから、やくざじゃないんです。だから、何でも出してください。

○D 話、大分さかのぼるんですけども、アルコール云々の件が弓場さんから御要望いただいたときに、どうしても、おしかりを受けるかもしれないんですけども、制度でできること、できないことという部分があって、自分たち事業所だけでは、ちょっとどうにも解決でけへんなところをすごく思ったんです。で、阪南市のほうに投げかけさせていただいて、そのときに御対応いただいたんですけども、やっぱり今回の、最初は携帯電話云々の件でいただいたんですけども、ちょっとやっぱり事業所だけではなかなか判断がつかなかったりとか、自分たちでもどう対応していいかわからないという部分がすごく大きかったんです。弓場さんには大変失礼なことをしてしまったかと、結果として、してしまったかと思うんですけども、阪南市のほうに、今ちょっとこういう件で自分たちもどうしていいかわからないというところで、先に御相談させていただいたところがあるんです。

○F それで、こちらから、南さんから、行かせますからという、その時点でもう完全に。
ほれで、どういう意見だったんですか。

○D 意見。意見というか。

○F いや、南さん、しゃべってくださいよ。えっ、全部あなたが……。

○D もちろん、市の方としては、うちの話だけを一方的に聞くのじゃなくて、やはり本人さんの思いとかというのも私たちを介して聞いているだけではわからないので、それだったら、中立な立場で弓場さんのお話というのを聞かせてもらいますつて。うちができるのは、そういう形で一度、本人さんにお話を聞かせてもらいますということ
で御返答いただいたんです。

○F アルコールの件は木々がさんも知ってる。あの件は私も、あなたたちに無理を言っても仕方ない。この方が弓場さんのためにつて、特別に許可のあれを発行します。1回は私も受けさせてもらおうと思ったけども、やっぱり自分だけ抜け駆けも私の性分
でできないので、それで泉南市、泉佐野市、ほんで、大阪府、厚生労働省、どうして、
こんな介護会社の人は、ビール1本飲めないんですか、それでやりました。

そのときで、木々がさんも知ってる。あなたには、弓場さん、頑張つて聞いてよかったですねつて、あなたも言った。ほれで、こんなんやってくれたほかの人にも。ほんで、泉南市の野口さんも。だから、私は、この方には、このたびのことはお気持ち
本当にありがとうございますつて、ほんでやってみました。それはそれで終わった。

ほんで、今回のもんも、たかだか1本、でも、あなたたちはルール、それも私は、
こんな仕事をしてたから全部わかつてる。ただ、1個だけ違うのは、うちのルールと
違うことは、花王のルールと違うのは、ここは介護してる。いろんな人の、1万人い
たら1万……のある。ほれで、伝えたことも、また思いも違う。

だから、そういう意味で言つて、じゃあ、悪いけど、あなたね、私たち、こんな嫌
らしい意味じゃないよ、あなたたち、私のシャンプー、リンス使ってくれた？木々が
さん、あなた、気に入ったんですよね。これからもずっと使います、使いたいと喜ん
でくれた。私は物すごくうれしかった。それはルールじゃなくて、ルールを超えて、
あなたは弓場という男の聞いてくれたんや。いやいや、弓場さん、できませんじゃな
くて、私の気持ちを受け取ってくれたんや。

ほんで、あなた、知ってる？ほかの人何人も何人か差し上げてる。ほれで、木々がさんと
コバヤさん、あの子にも、あなたたちは細かいけども、こんなの渡してる。喜んでく

れてる。ということは、みんな、私の、ルール以外の、ルールじゃないんやけど、受けてくれてるんや。

じゃあ、電話1本、一番大事な電話1本ぐらい、僕はそれを駆け引きには使ってない。でも、人間って、そんなものって、あなたも、どうしてそんなときはいけて、何でそれはだめなんですか、そしたら。あなたは堂々とルールを破ってるんや、そしたら。ルールやったら。違うの？それでも私、年に1回か、2年に1回かもわかりません。私は本当に恥ずかしいことで、一番話ししやすい人にしたいって、別にそこまで悩むんじゃないの。この人みたいに弓場さんだけ特別に今回は、ルールはこうです、基本はこうです、でも、弓場さんはひとり住まいやし、友達もそんないてないから、ヘルパーさんが助けてあげないと電話ぐらい。

何遍も言います。携帯でも、携帯番号は消します。ほれで、時間も後からで、私だって、そんなこともわかってます。だから、そういう目で言ったら、私はそんな特別なことで、あなたたちは、だから、案の定、あなたは最後に言いました。弓場さん、それぐらいやったらいいですねって。じゃあ、仕事中で支障を来さないんやったら別に構いませんよって、そうでしたよね。この方も、最初は反対してたけど、その場では言わへんかった。だから、この方の議事録見たら、ちゃんとその問題はもう終わった形になってたはずなんです。

○E はい。

○F そのときに、あなたが、ごめんなさいね、今回あなたたちは弁護士の、弓場さん、弁護士に電話してますね。ひょっとしたら、弓場さんは訴えるんですか、みらいを訴えるんですかとか、ヘルパーさんたちが怖がってますって、あなたが言ったんやね。そのときの議事録ないからあれやけども。

○E それは言っていないと思います。

○F ああ、違うの？

○D はい。

○F どういう感じやった？

○D いいですか。

○F うん。

○D 火曜、ワダさんと一緒に訪問させていただいた前の週にオカガとワダがこちらにお伺いさせていただいて、その携帯で連絡云々の話をさせていただいたかと思うんですけ

れども、そのときに2人が、弓場さんはそういう。

OE 思いとしては、……できるような形にできたらいいけど、事業所としてできるかどうかの判断というのは、個人の携帯を教えるとかというのは基本的にはできないという
ような御説明を11月27日の火曜日にさせていただいたかと思うんですけども、そのときに、もし、社長に1回聞いてみれくれと弓場さんがおっしゃられたと思うんですよ。君たちだと答えができないのであれば、社長に1回聞いてきてくれと言われて、もし障害者に対して誠意のないような行為を、返答を持ってくるんだったら、僕は、みらいさんに限らずですけど、ちゃんと法的な手段とかというのも考えられるんだよ
というの言われました。

OF ああ、言うた。言うた、言うた。

OE はい。

OF それは、私は一会社の論理で、本来は世の中では大手のところもあるし、ほれで、
いろんなほかの人も聞いたら、やってると。それは、もちろん個人情報とか、そんな
こともあるね。

でも、そのときに私は言いました。あなた、この木村さんが絶対首を縦に振らな
かったので、私は、でも、社長は、社長はと言うから、じゃあ、社長って、そういう
話になった。社長に1回聞いて話したいと言って。納得してくれへんやったら、も
う結構、でも。そんなんで4日の日ハネになった？

OD 来たときに、私は直接は伺ってないんですけども、そういうお話をされるという
こと自体も、私たちに対する、私たちに対するというか、信頼関係、私たちは私たち
で弓場さんと信頼関係ができていると思ってたんです。それは言わせてもらったかと
思うんですけども、じゃあ、その信頼関係が破綻しているんじゃないですかという
ことを私、逆に弓場さんに伺ったと思うんですよ。だから、そういうふうなお言葉を
かけられるということは、もう私たちに信頼自体がないんじゃないですかということ
を私、そのときに弓場さんに。

OF ごめん。この間、4日の日？

OD ウェダさんと田脇さんといらっしゃった日に、そういう形でお伺いしたかと。

OF 何て言うた？これをはっきり聞こえなかった。覚えてる……。

OD そういうふうに、私たちとしては誠意を持って対応させていただいてたつもりなん
ですということをお話しさせていただいて。

○F えっ、何で誠意を持ってって。どこ。

○D 今まで。

○F いや、どこへ飛んだ？どこからどこへ飛んだかわからへん。

○D その火曜日。12月。

○F いや、ごめん、私の聞きたいのは、ごめん、頭こんなんやからね。私のペースにしてみらわないと、私、自分では、これでは消えてしまうので。

今の話は、そこの携帯電話で、カカがさんが、もう私の一存ではあきません。ほれで、社長と話したときに、ほれで、そのときに私が法的なことも、誰でもみんな、一方的な会社の論理でそんなのされたら、私らみたいな障害者とか不自由な人は、あなたが嫌やったらやめてくれと、そんな論理で横車とか、それで言うことを聞かへんかったら、できない言われたら、じゃあ、私たちは一般的な常識でみんなに聞いてもらう方法がある。だから、裁判でも誰でも、みんなどこでも判断してもらええ。別に私は、一般の常識は多分いけると思うけども、そういう意味で、あなたには裁判の手続もあるんですよと、それは言った。

その後、あなたに4日に言って、4日に至ったときに、ほんで、ごめん、はい、それで。

○D ほんで、そういうふうなことを言われるということは、私たちに対する信頼というのは、もう既になんないんじゃないですかということを私、信頼関係自体がそういう、裁判してもええとかというふうになるということは、そう思っではるんじゃないですかということを私お尋ねさせてもらったんですよ。

○F ごめん、そこは、私、都合のいいときとか、自分、都合の悪いことだけ聞いてないじゃなくて、私はそのときは、もし、あなたがそんなことを言ったとしても、私ははっきりそんな意味で言っているのは知らなかった。何でかいうたら、今言うみたいに、私は自分の論理を押しつけない。それは別に、あの4人たちとか、ほかのヘルパーさんとの問題よりも、会社として、そこまでこんな、私にしたら、ささいなことや。1年に1回ぐらいの電話を聞いてもらうこと自体、何かの理由づけて受けない、受けとめないということ自体が、そんなことをするところは、やっぱり患者のことを考えてあげるのは仕事、介護会社の仕事違いますか。だから、私たちがどうしても常識的なことが通じないんやったら、いろんな人に一般に聞いてもらうと、そんな一般論的に言いました。だから、みらいさんが今もすごくみんな、すぐに。

田脇さん、知ってるよね。私、みらいさんは別に、そんなに、ささいな。あの電話の問題なかったら、ずっと一番、今は、前は、いつとき、2人で始まったけど、3人になって、今は4人でやってくれてる。その4人の場合は、ちょっとニオさんの問題もあったんかしらんけども。でも、じゃあ、それなりにやってくれてるから、私にとったら、そんな今すぐ裁判したりとか、女の子たちと、あの人たちと信頼感がなってるんだ、そんなの私らは、よもや思ってた。そんなところへすりかわっていると……。

○A だから、弓場さん、きのうも申し上げたように、意図と相手の受け取り方、きっと、きょうは違っていると思いますということも申し上げましたが、受け取った側がやっぱりどう思うかということが非常に重大になってくると思うんです。だから、今お話しされて、そういう意図ではなかったという。これからのお話も、きっとそういうお話が出てくるんやと思いますけど、でも、受け取るほうは、ぐっとなるケース、それを申し上げられたら、やっぱりその被害を受けられた。

○F いや、多分、僕、南さんには悪いけど、ごめんね、あなたにこんな物の言い方するのは私が、許してください。5つだけ、一応、私のほうが先に。

○A ああ、いや、先輩でございますので十分聞きますけど。

○F 今のところでも、もし、人間って、ものの伝わり方というのは、ある言葉だけとったら、その言葉のあやを知らずに一言言うたら、この間だって、そう。例えばみんなが、あなたたちは野口さんには、弓場さんは、もう行きたくなかったら来なくても、無理やり縄をつけて連れてくることできないから、弓場さん、それやったらやめられても仕方ないなって弓場さんは言ったから納得してくれてますとかいう言い方で野口さんには言ってた。でも、私はびっくりした。えっ、あんな一般論的に言ったことが、どうして。一般論では、それはもちろんそう。みんなが嫌や言うてるの、そんなの言う気ない。でも、私はとなる。

だから、何でもそうやけど、よく政治でも、テレビで見てたら、何だったけども、こうと言うてるのに、これは賛成だけども、でも、今はこうやとか、後にこんなあるけども、あなたの場合は、今回は田脇さんにも聞いた。ほんで、ワダさんにも聞いた。あのときの話は、そんな一般論的やとか、それが目的とか、そんな形で、やめるためにとか、そういう理由探ししてるわけじゃなくて、私も言った、あなたたちに、えっ、私は、みんな一番、喜んでくれてるし、私もこんな人間やけど、それなりにちゃんと

やってくれてると思ってるから、私としては別に今すぐ、あの人たちがやめるとは考えられんと。なら、あなたは言った。いや、でも、弓場さん、私たち、きょう来た枡カと私だけじゃなくて、みんなが弓場さんのことを気遣ってるんですよ言った。ほんなら、えっ、そう。私、わからへんかったけど、もし、あれやったら、また、私もこんなんやから気つけへんから、もし何かあったら言ってくれますか。また私も、それじゃ、これから気つけます。あんまりしゃべらんようにします。ほとんど、あんまり要らんことを言うたら、また悪いんやったら言いませんと言いましたね。

だから、自分の伝えたいことの本心というか、その趣旨は、何かどこかの言葉のあや尻をとって、すぐ、これだという形で、それは本人たちが顔を見ながらとか今までの歴史とか、いろんなことの、そんなんもあって、あなたもそうでしょう、旦那さんとの話しするとき、実はこの間、旦那にちょっと頭にきてよって言ったとき、えっ、そんなひどい人とか、みんな言えへんでしょう。夫婦の、犬も食わんとか、でも、ばかな人は、いや、もう私そろそろ、あの人と別れたいと思うと言うたら、えっ、西ノ坊さん、奥さん、旦那と別れたい言うてたよって、そんな人がいる？何でもそう、世の中って。

私としては今回、いいですよ、でも、今そういうふうにとったと。ほれで、その後、ごめん、時間ないからあれやけど、そこから本論になってくるんですけど、はい、結構です、はい。

○D だから、その火曜日の時点で私たちも、ヘルパーが次の日にそういう申し出をしてくるといことは、まず思ってたんです。

○F でも、それ、西ノ坊さん、本当にあなたのその言葉を信じてええの？

○D それは本当です。間違いありません。ただ。

○F いや、違う、違う。後でみんなが、あなたたちが主導して、きのう、こんなん弓場さんと話したら、夜中まで遅くなって大変やったんや。ほれで、私らでもこんなんやから、あなたらも、ひよっとしたら、あなたの思うことを言ってくれたらええよ。

○D それはいいです。

○F 枡カさん、そう？

○E はい、いいです。

○F じゃあ、その日は、会議はいつしたんですか、そしたら。

○D 水曜日です。そのお話しさせていただいたのが火曜日で、その次の日です。

OF どれぐらいからしたんですか、ほんなら。

OD 時間ですか。

OF うん。

OD 時間は1時ですか。そのときに。

OF ほんなん、うそや。

OD イハラというヘルパーは現場に、こちらに来させてもらってました。その3人、登録ヘルパーだけ言ってきて、ちょうどイハラが帰ってきたときに、まだ話をしてたもので、今ちょっとこういう話になってるということで話したときに、私もやっぱりつらいというような話。

OF ちょっと待ってください。何で、あなたのこの間の話では、あなたたちが集めたんでしょ。

OD いえいえ、違います。ヘルパーのほうから申し出たので。

OF 誰よ。あの人か。伪りさんやな。伪りさんが。

OD 余り。

OF いや、構へん。いや、わかんねん。そんなもん、わかる。誰かって、わかるって、ほんな。

OD ちょっと個人を特定するのは。

OF 違う。

OA 状況だけの説明は、弓場さん、聞いて。

OF 違う、違う。まあいい、はいはい。

OD 今ちょっとここに居合わせてた者もいましたので、ヘルパーのほうから、いろんなね、仕事をしながら一部始終、話を聞いてたわけではもちろんないんですけど、いろんなやりとりの中で、ヘルパーのほうから、事業所との信頼関係というのもないんじゃないのということも、実際、私ら。事業所が弓場さんとの信頼関係というのもうまく築けてないんじゃないのということもヘルパーにも言われたんです。弓場さんにああいうふうに言われるということは、サービス提供責任者が来てほしくないとか、そういうふうになっているということは、もともと無理なんじゃないのって、ヘルパーのほうからも言われたんです。その中で、私たち自身も、これ以上行くのがしんどいんやでということヘルパーが言ってきたんです。

OF 大体どんな。ごめんね、頭切れるから。伪りさんが、みんなにしんどいからって、

あなたたちに言いに来たんでしょう。

OD はい。

OF そのときはウカがさんも入ったん？

OE はい。

OF ウカがさんと、あなた、あと誰？あの人？ウダさんは？

OD ウダも、はい。

OF ウダも入ったんやね。ほれで、そのときに、私に、弓場さんらも信頼関係も社員さんもできてないところあるからとか、そういうことを言ったんですか。そうじゃなくて、それが、私に変な……。

OD この事業所と弓場さんとの信頼関係というの、もともと破綻しているんじゃないのかという。

OF ああ、そういう聞き方。

OD 登録ヘルパーは疑問に思ったみたいで言ってきたんです。

OF はいはい、わかった。

OD その中で、私ら、これ以上行けないでしょうって。私たちもやっぱり精神的に負担もあるし、その中で私らはまだ行かなあかんのかというようなことやったんです。それに対して。

OF じゃあ、もう一回整理するね。

OD はい。

OF ということは、あの人らの言い方としては、信頼関係がそちらでできてない。私らも、そんな信頼ができてないところに私たちも、そんなところを見せてもうたらとか感じてしまったら、私らも、そんなところへは入りにくい。何で私らだけ入らないといけないのと、そういう話になったんですか。

OD 入らないといけないのという表現ではなかったんですけども。

OF ごめんな。今、そんなの聞こえたんや。

OD ヘルパー自体、それが最終的なみんなのそういう結論に至った理由になるんだと思うんですけども、それまでも、やっぱり事業所には言えなかったけどというのを、やっぱりそれぞれが抱えてたようなんです。私が行けないと言ってしまうと、ほかの人たちに迷惑かけるんじゃないか。

OF うん？

- D ほかの、例えば私がヘルパーやったとして。
- F あなたがヘルパーやった、うん。
- D 私がちょっと弓場さんにこういうことを言われてしんどいわ、これ以上行くの、つらいなと思ったときに、自分が行けないと言ってしまうと、ほかに入ってるヘルパーに迷惑をかけるんじゃないかとか、やっぱりそういう思いをみんな持ってたみたいなんです。
- F ああ、みんなが。
- D 自分が一抜けたということはできないというふうに。
- F ちょっとごめんな。頭悪いな。1人が。
- D はい。
- F みんな、くすぶってるもんがあると。くすぶってるけども、今までやったら誰も言える人いなかったけども、その場では、社員の人もみんな、そういう信頼関係が壊れてるところで、私たちもそういう、沸々としたそういううっせきの中で、私たちも行けなくなると、行けなくなると、そういう話になったんですか。そういう意味なんですか。いや、正直言うてください。
- A その日に思いが爆発したというような状況なんでしょうね。
- F 爆発、どういうことを爆発と……。
- A うっせきした、おなかにあったものが、それぞれのヘルパーさんが出たんでしょう。
- F じゃあ、そのときに、弓場はここがいかん、ここは怖い、ここはって、そうなったということ？いや、構へん。じゃあ、何で、僕、今ね。
- D いえ、違います。ここがいかんとか、そういうことではなくて、やっぱり受け手の捉え方だと思うんです。だから、ヘルパー自体がしんどいと思ってしまったら、弓場さんの何がどうじゃなくて。
- F ただ、1個ごめんね。
- D はい。
- F もし、ごめん、何で忸さんとか聞いたのは、例えば、これ、50人やったら、私、何も聞けへん。でも、4人やから、例えば1人が言うたら4分の1の意見やん。2人いうたら50%やん。その中で、あなたたちは、みんなと言うけども、どうして忸さん、まだ入ってちょっと。この間もシャンプーもらって喜んで帰ったけど、ほれで、この人は言われた、弓場さん、ちょっと言葉、みんな切って、おいしいないとか、あ

んまりきつく言わんといってくださいねと言われた。でも、その後、あの人と一緒に卵焼いて、別に卵焼きの美味しいお店行ってやってもろた。ほんなら、わいわいやってやってた。ただ、あの人がひよっとしたら嫌やったんかしらん。といっても、あなた、誰でも人間って、4日ぐらい会社のどこか入ったときに、そこまで、ひよっとしたら人間って、雨降って地固まるとか、そういう経験をいろいろ積んでいって、人間って、あなたもそうでしょう。いろんな人いるけども、そら、確かに大人になったらなかなか、一旦戻るには戻られんというのわかってるけども、でも、仕事でしょう。仕事ですよ。例えば、私はあそこのお店の課長さん嫌いなんや。あの店に入りたくないと言うたら、私らも頑張って、そんなの最初から、みんな、仲のいいいうて難しい。仲よく間をつくっていくのが、あなたの仕事や。それがお客さんとのそういう勉強にもなるし。だから、私が、どうしてそんなことを平気で言えて、それをまた社長が、みんながというふうな、コバヤさんはちょうど、あの人は半年ぐらいか。あの人だって何と言って。

だから、何で、あなたにはっきり言うてというのは、もし、あの人が本当にそんなことを言う人間やったら、私は、ほんまに人間が、いろんな人間いてるけど、ややこしいのいてるか知らんけど、ほんまに信じられん。何でかったら、あの子、来るときはいつも、私のこんないろんな、ああ、カガさんに見せてあげた、いろんなこんなコピーを。あの子はいつも持って帰るんや。ほんで、この間も来たときも、弓場さんとこ来たら、いろんなこと勉強になるから、本当は弓場さん、もっと入っときたいんやけども、時間ないから仕方ないんです。でも、弓場さんに週1回やけども、本当はもっともっと時間とりたいぐらいですと言って。ほれで、そなん言うて、ごめん、これも言うけども、またお金の問題違う、2週間前にちゃんとまた2,000円のシャンプー、リンスあげた。ほんなら、ありがとうって。ほれで、はっきり言うて、あの人は、僕は別に構へんで。別に恋人同士違うけども、あの人は、アハさんは、私、弓場さん、私、好きやわって。好きというか格好ええと思ってる。ほれで、えっ、私、こんなのまだ、こんな60でこんな体で、それでも格好ええと言ってくれるのありがとうったら、いや、弓場さん、普通に私は好きですよ。だから、私、弓場さん、こんな体とか、そんなの何とも思っていないよ。ほれで、その顔が、例えばおなかの中に何かあって、そんなことを言ってるか言っていないかは、ここへ来たときは本当に笑顔つくってくれて、ほれで、あなたは、剛力というんか、誰？

○A タレントさん。

○F タレントでいてる。ほんで、あなた、髪の毛切ったほうが似合うよと言ったら、ああ、私、そうですか、似合いますかって、ほんなら、案の定、ちょっと短くなったときあった。ほんなら、合うね、やっぱり。ほんなら、そうですか。ほれで、私にしたら、あれでもし、はしごを外す人は、それは悪いけど、多分ハナさんが一番上やし、ほんで今まで、ひょっとしたら、ハナさんは知りませんよ。もう1年間、ずっと1年半近くやってもろてて、一番、私が、減って2人体制のときのニハさんときに一番やってくれた。だから、私にとっては、あの人は何を言っても、それは構へんと思ってんねん。うん。私にすれば、ああ、そこまで、何か私が気つかんかったか知らんけども、御苦労さまでした。よくこんな難しい男をやってくれましたね。ただ、あの人もすごく、年もあるけど、やっぱりプライド高いから、だから、それは何か、あの人は、ああいう姿を見たら、ほれで、オカガさんとか社長は、あの暗いところでやられたら何か嫌な思いするのは、それはもう私わかってる。

だから、もし、あの、ほれで、そういう仲間の顔もあるかしらんけども、私にとっては3人全員が身の危険、すぐに引き揚げさせないと身の危険があるとか、そういうことに、もしコバヤさんが言うんやったら、私、ほんまに、私もいろんな女性と、マネジメントじゃないけど、いろいろあったけども、一緒に仕事したけども、あれで通る、言う人やったら、私、ほんま信じられない。

ほれで、オカハさんは、まだ始まったばかり。一緒にこれからあのひと次の形をつくっていけると思ってた。だから、何でかしたら、あの子もいつも言った。あなた、体、失礼やけど、こんな体で、子供さん、よく育てて偉いねと。あなたは子供さんつくるときに、旦那さんは本当にもう心配したん違うと。でも、あなた、頑張ったね。私やったら心配でたまらんって。だから、あなたが買い物行ったときは、いつも私、車、何かあの子がランドセルみたいに荷物持っていって、行ってきます言うたら、私は、小学校の子が学校行くみたいに物すごく、事故起こさないか思うて、私、心配してる。それまで言うた。だから、私としては、どうしてね。

ほれで、ニハさんも2回前、2週間前、弓場さん、今回のちょっとがたがたしてるけど、あんた、また実家へ帰りますいうて帰るん違うと言うたら、いや、私、ほんな心配せんでも、弓場さん、私は絶対、弓場さんから、やめと言われるまでは、やめませんよって。弓場さん言うまでは置いといてくださいよ。弓場さんから、やめえと言

うまで私やります。やりたいと思いますって。

だから、女性やから、そら、口と腹は違うかしらんけども、でも、あそこまで私は、私もずっと仕事で女性とも仕事したけども、そこまで、そら、どっかの本当に、夜の街の客商売で売り上げだけのためにと、そんなんには私は感じない。普通の夜の街の人でも、もうちょっと節操があるなと私は思う。私からすれば。それぐらい、いきなり、弓場さんが思っていることと言いかたとか、いや、だから、わかってるのと違う。侘さんが言われたら、みんながやっぱり、そこで、もし侘さんを守れへんかったら、何か侘さんだけののになってしまうから、そういう思いはわかる。

でも、じゃあ、あなたに何遍も言うけども、別にあと1週間、2週間、じゃあ、ここへ入ったら、みんなが危険を感じてとか、私はそれが、そこまであなたたちが言う、それは、ほんまにチンピラの言いがかりと。裏町のチンピラの言いがかりにしか見えない。

ほんで、私、こんな人間やけど、あなたも知ってるやん。私が怒っても、ちゃんとやられたら、ボタンとおうたら終わり、私は。そんな危険度もないし、もしあれやったら、私が包丁を持った姿、見たことありますか。そら、言葉はこんなんや。声もここから出さんとあかんから、また大きな声でうわっと言うしかないときもある。きれいに低い声で、小さな声でずっと音楽みたいに歌みたいになすって伸ばせられん。でも、どうしてそういうところまで飛躍するんかなと、私はそれがわからへん。だから、南さんは言ってるけど、思いうたらあれやけど、ほれで、あと、どこか何かしたんですか。教えて。私が例えばお尻さわったとか、ほれで、それとか何か、抱きついたとか、それとか何か、包丁を出したか。

○A ほんな話は、きのうも1個も言ってないですね。……行動に出た話ではなくてということですよ。

○F ほれじゃ、ごめん。ほんなら、今の話で、ちょっと待ってくださいね。西ノ坊さんね、あなたは、ウカガさんもいいや、4日にそう言うて終わって、あなたたちはそれで一旦は、また普通どおりと思っていた。それはいいんですか。それは信じていいんですか。

○D はい。

○F そこで他意はないんですね、そのときは。ほれで、あの人たちの、侘さん、リーダーの、チームの人たちの話から来たんですね。それを受けたときに、みんなもちよ

っと行きたくないと言い出したんですよね。そのときに、身の危険とかは言わなかったんですよね、そのときは。言ってください、それも。

OD 身の危険とかじゃなくて、もし、本来、解約するということは、もちろん次の本人さんの生活の担保というのが必要なので、次の事業所さんに引き継ぐとか、そういうことを私たちはやっぱり努力しなければいけないと思うんです。

OF それはわかっているんやね。

OD その話もしたんですけれども、解約すると言ったら、私たち行けませんって。

OF ごめんなさい、そこなんです。そこで、いつも言った。子供達うんやから、地震で復旧するときに、みんなでその港を直さんとあかんときに、ほったらかしてはできないですね、普通、私たちは。会社は。ほれで、あなたたちもそう。どうして、行けません言うても、ちゃんと私が弓場さんと話しますから、こんなことでなりましたからって、どうしてそれができないんですか。そういう発想がどうして出てこないですか。どうして、本来の仕事を、あなたはビジネスマンとしてですね。

ほれで、あの子たちは、何遍も言います、包丁を出したとか本当に危険だったら、それは仕方ない。私も、経営者としては体を守るのは、それはあなたの仕事や。それは体を張ってでも助けやんとあかん、そのときは。危ない人やったら。でも、どうして、みんなが、こんなことをこんな会議でしてしまっって、1回みんなが表明してしまったら、弓場さんにも、そんな顔会わすかい、あなたも言ったけども、コバヤさんだって、多分そんなこと言うて、えっ、コバヤさんはそんなことやったって、そら、ある面は、あの人たちのある面、まだわかっているから、こんな形で弓場さんに言うたら、私らも今まで何言うてきたんかなとか、私らもちよつと弓場さんに何かちゃんと伝わってなかったか知らないけども、ちょつとやっぱり、1回そういう形を言っってしまったら、例えば、あと10日でやめさせてもらいますいうた時点で、ひよっとしたら弓場さんが、みんな、弓場さん、何するかわからへんと言うたん？それとも、いや、1回嫌やと言うたから。

OD 彼女たちが言ったのは、スエラさんみたいになりたくないって。

OF 誰？

OD スエラさんみたいになりたくないって言ったんですよ。

OF ああ、スエラさん。

OD はい。

○F あれな。

○D スエラさんに弓場さんがきつい言葉をずっと援助中にかけて、彼女は泣いて帰ってきました。

○F あの子な、はい。

○D 私たちは、そういうふうにはなりたくないというふうにみんなが言ったんです。それ以上、私、済みません、言葉出なくなっちゃったんです。

○F いや、言うて。

○D だから、そのときに私、彼女たちに、それ以上、強く言えなくなっちゃったんです、言われたときに。過去に経験していることを一旦、人間が怖いと思ってしまったら、それはスエラさんのときやったやんかということを、私、それ以上、言えなくなってしまったんですよ。彼女たちは怖いって思ってしまったんです。スエラも弓場さんとすごくいい関係性ができてるなと思ってた中で、いきなりそういうことを言われた。弓場さんからしたら、ごめんね、やっぱりこういう病気やから、情動失禁で、ごめんなさいね、言い過ぎてしまったって、後でやっぱり言っていたいたんですけれども、本人はそれをもう受け入れることができなかったんですね。彼女たちも、やっぱりそういうふうにはなりたくないというのを一番言ってきたんですよ。私、それ言われたときに、それでもやっぱり事業所の務めやから行こうよということを言えなかったんです。私の確かに力のなさだと言われれば、そうかもしれないですけど、私もそれ以上、言えなくて。

弓場さんには本当に大変失礼なことをやっぱり電話で申し上げてしまったと思うんです。あした、急に行けませんということを。でも、何か自分でも、もうそれ以上どうしていいのかわからなくなって。ヘルパーに、おっしゃるとおりだと思うんです、仕事やから行ってもらわな困るということを強く言えばよかったのかもしれないですけど、それを言われてしまったら、私も言えなかったんです。